

県西教育事務所だより

未来に向かって 高い志を持ち たくましく生きぬく 人づくり

「学校に元気を 先生方に自信と勇気とやる気を 子どもたちに夢と生きる力を」 平成30年2月15日発行（第11号）

【学習班より】【全国学力・学習状況調査に向けた学習内容の確実な定着】

過去の全国学力・学習状況調査において課題の見られた内容を以下にまとめました。年度末に向けて、適切な補充指導や個別指導を行うことで、児童生徒一人一人に確かな学力が定着できるよう、各学校の積極的な取組をお願いいたします。

なお、これらの内容を含めて児童生徒のつまずきに対応した「学力アップ問題Ⅷ」が、教育情報ネットワーク（文書通知→義務教育課）に掲載されています。授業や補充学習等で効果的に活用し、学力の向上に努めましょう。

【国語】

小学校	中学校
【漢字の書き取り】 ・類似した字形の漢字 シャワーを浴びる（誤）浴びる・H27 A ・同じ読みをもつ漢字 先生に相談する（誤）懇談する・H19 A ・同じ音をもつ漢字を意味を捉えて書く 会場 開場・H20 A 【文についての理解】 ・接続語を使って一文を二文に分けて書く・H21 H25 A ・文の主語として適切なものを選択する・H27 A	【漢字の書き取り】 ・複雑な字形の漢字 燃料を揃う（誤）衣へんが示へんに・H21 A ・同じ読みをもつ漢字 友達に本を置す（誤）置す・H19 A 【文についての理解】 ・主語に合わせて述語の部分を正しく書き直す・H21 A ・「青い」「青さ」の品詞名として適切なものを選択する・H27 A ・適切な語句を選択する。（弟子を手塩にかけて育てる）・H27 A

【算数・数学】

小学校	中学校
・割合 ①割合の意味についての理解（5年）・H22 A9 ②基準量・比較量・割合の関係についての理解（5年）・H20 A4 ③百分率の意味についての理解（5年）・H24, 25 A8 ④量を表す数と割合を表す数についての理解（5年）・H26 A2 ・単位量のあたりの大きさ（5年）・H25 A4 ・概数（4年）・H25 A2 ・円（3年）・H27 A5	・目的に応じた式変形（2年）・H27, 28, 29 A2 ・移項の意味（1年）・H26 A3 ・方程式の解の意味（1年）・H28, 29 A3 ・作図の手順（1年）・H20, 23, 27 A4 ・移動（回転）（1年）・H25, 26 A4 ・最頻値、中央値、相対度数（1年）・H27A14, H28A12, H29A14 ・同様に確からしい意味（2年）・H28A13, H29A15 ・確率（さいころ）（2年）・H27 A15

【理科】

小学校	中学校
・顕微鏡の適切な操作方法（5年）・H27 ・虫眼鏡の適切な操作方法（3年）・H24 ・植物の成長の様子や日光の当たり方（3年）・H27 ・受粉と結実の関係（5年）・H24 ・析出する砂糖の量についての分析（5年）・H27 ・水に溶けている氷砂糖の様子（5年）・H24 ・方位を正確に捉えた月や星の観察（4年）・H27 ・方位磁針の適切な操作方法（3年）・H24	・溶解度と再結晶（1年）・H27 ・溶液の均一性と粒子のモデル（1年）・H24 ・水の状態変化と関連付けた雲のでき方の説明（1・2年）・H27 ・柱状図の比較を基にした地層の傾き（1年）・H24 ・容器に入れた水の量と音の高さの関係（1年）・H27 ・電力量に関する知識の活用（2年）・H24 ・音の高さの条件を検証する実験計画の作成（1年）・H27 ・物質の溶け方の仮説を検証する実験計画の作成（1年）・H24

【生徒指導班より】 SNSの不適切な使用に起因する問題行動等への対応

管内の小中学校において、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の不適切な使用に起因する問題が深刻化・長期化し、対応が難しい状況にあります。また、全国学力・学習状況調査ではインターネットの利用時間が学習に大きな影響を及ぼすことも示されています。ぜひ、各校での情報モラル教育に関する校内研修を充実させ、SNSの適切な利用について、継続的な指導をお願いします。

＜SNS利用における課題等＞

- 学力とネット利用時間の関係について
右のグラフにあるように、ネットの利用時間が一定時間（約1時間）を超えると学力の低下が見られます。
- 管内におけるSNSを介した事件・事故等の発生状況
誹謗中傷・いじめ 2件 家出 6件 その他事件 2件
※発生状況が増加傾向。家出については再発・長期化する場合が多い。



【全国学力・学習状況調査とネットの利用時間との相関関係】
【平成29年度生徒指導指導者養成研修 竹内和雄 講師資料より】

・情報モラル教育に関する校内研修の充実

「あんしんネット 冬休み・新学期一斉緊急行動」（内閣府HP）
⇒普及啓発コンテンツリンク集の活用（インターネットトラブル事例集等）

・関係機関との連携による指導の充実

児童生徒が被害者や加害者にならないための発達段階に応じた指導の工夫（各携帯電話会社等による親子情報モラル教室の開催）
児童生徒がトラブルに巻き込まれた際の相談機関の周知
（警察サイバー犯罪窓口、子どもホットライン等）

・家庭への啓発

家庭での話し合いと「ルールづくり」等の必要性

SNSを使用する際の「家庭のルール」（例）

- ・インターネットの利用時間は1日1時間まで。
- ・9時以降は利用禁止。
- ・個人情報を書き込んだり、自分の写真を送ったりしない。
- ・知らない人からの着信、メール等は無視する。
- ・SNSで知り合った人には絶対に会わない。
- ・食事中・会話中は、スマートフォンの利用禁止。
- ・スマートフォン等は自分の部屋に持ち込まない。
- ・困ったときはすぐに家族や学校に相談する。

【シリーズ「授業の中での人づくり」59】

～相沢 宏満 教諭(八千代町立八千代第一中学校)の実践～

八千代町立八千代第一中学校では、目指す生徒の姿を「課題解決能力を高め、主体的に表現できる生徒」とし、日々の教育活動に取り組んでいます。相沢 宏満教諭は、社会科の授業を中心に、生徒たちの思考を促す工夫と意見交換や話し合い活動を通して、自分の言葉で表現できる生徒の育成を目指し指導にあたっています。

【一時間一工夫のポイント】 ～『納得解』を実感できる授業とするためのポイント～

【実践例】 第2学年 社会科 関東地方

目標 関東地方の地域的特色について、資料から読み取ったことや学習してきたことを活用して表現することができる。

一極集中の関東地方の特色をまとめよう。

- 八千代一中スタイル①:「見通しタイム」
本時の課題に対して、既習事項を生かして予想を立てる。課題を解決するためのキーワードを考える。
- 八千代一中スタイル②:「問題解決タイム」
本時は、関東地方の特色をまとめるために、9種類の資料から読み取れること、分かることを個人で付箋に記入した。
- 八千代一中スタイル③:「シェアタイム」
個人で読み取ったことをグループで出し合い、分類化したことで、新しい視点や関東地方の特徴をより明確に確認することができた。
- 八千代一中スタイル④:「振り返りタイム」
自分の言葉で学習のまとめをする習慣を大切にして、学習内容を確認する。



【資料読み取りの場面①】



【資料読み取りの場面②】

グループでの話し合いで意見や疑問点を出し合うことで、関東地方の地域的特色について、自分の考えに加筆し、学びを深めました。



【グループでのシェアタイム】

課題3 他の地方と比較して、関東地方の特色をまとめよう。

例: ○○地方は、_____だけど、関東地方は、_____です。

まとめ

九州地方や四国地方は、人口が減少している所が多い。鉄道は海沿いに広がっているが関東地方は人口が多く、鉄道は都心を中心に広がっている。

【生徒が書いたワークシート】

【相沢教諭から】

本校社会科のテーマ「生徒たちの思考を促す工夫と意見交換や話し合い活動を通して、自分の言葉で表現できる生徒の育成」を意識して授業を展開しています。そのために、単元など内容や時間のまとまりを見通して学習課題を設定し、諸資料や調査活動などを通して調べたり、思考・判断・表現したりしながら、社会的事象の特色や意味などを理解したり社会への関心を高めたりする学習を大切にしています。今後も、生徒が授業の中で主体的に考える場面や自分の言葉で表現する機会を確保できるように、それぞれの学年の生徒の実態にあった授業づくりに取り組んでいきたいと思っています。

【生涯学習班より】

第5回いばらきっ子郷土検定県大会(中学2年生対象)が、2月3日(土)に茨城県立県民文化センターで開催されました。開会式で筑西市立明野中学校 大和田佳希さんの選手宣誓の後、午前中に予選リーグ、午後から準決勝、決勝戦が行われました。各市町村のゆるキャラも応援に参加し、選手を激励するとともに会場を沸かせました。県西部地区の中学校は、決勝に進出できませんでしたが、郷土代表として奮闘する姿を見せてくれました。

常総市立石下中学校



<準決勝進出校>

筑西市立明野中学校、常総市立石下中学校



筑西市立明野中学校

【人事課より】

【入試関連事務、進級・進学事務の適正な取扱と処理】

- 児童生徒、保護者に寄り添った教育相談、進路指導の実施
- 成績や進路等に関する児童生徒の個人情報の適正な取扱(持出は原則禁止、守秘義務の徹底)
- 各校の進路事務取扱要項等に基づいたチェック体制の点検・整備 □進路事務の適正な処理

【交通事故・交通違反の未然防止】

1月22日午前8時30分から1月23日午後0時の間に、茨城県内で路面凍結・積雪によるスリップ事故が765件発生

- 安全な速度と十分な車間距離 □「急」のつく操作をしない(急ブレーキ、急ハンドル、急発進等)
- 漫然運転の防止 □速度制限厳守